DNP Report
株主通信

（証券コード：7912）

Vol.120

INDEX

■ TOP MESSAGE　株主の皆様へ

■ [特集]「未来のあたりまえをつくる。」
～コンテンツ・XRコミュニケーション関連～

■ Pickup News

■ 2025年3月期 第2四半期決算のご報告

DNP

TOP MESSAGE 株主の皆様へ

「より良い未来」の実現に向け「P&Iイノベーション」で事業を拡げる

代表取締役社長 北島 義斉（よしなり）

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

DNPグループは、環境・社会・経済が急激に変わるなかでも、変化やリスクに対応するだけでなく、自らが長期を見据えて変革を起こし、「より良い未来」をつくり出す事業活動を展開しています。行動指針に掲げる「対話と協働」を深めて、DNP独自の「P&I」（印刷と情報）の強みを掛け合わせ、多様なパートナーとの連携も強化し、事業領域の拡張と業績の拡大に努めています。

当年度は2023-2025年度の3か年の「中期経営計画」の2年目として、持続的な事業価値・株主価値の創出に注力しています。この計画の「事業戦略」では、中長期にわたって強みを発揮できる事業ポートフォリオの構築を進めるとともに、注力事業領域を中心に新しい価値の創出を加速させています。「財務戦略」では、創出したキャッシュを事業のさらなる成長への投資と株主還元に適切に配分していきます。「非財務戦略」は「人的資本の強化」「知的資本の強化」「環境への取り組み」を中心に推進し、サステナブルな成長を支える経営基盤の強化を図っています。自然災害等の不測の事態に対しても、グループを挙げて事業継続マネジメントの徹底を図ることで、途切れることがないように企業活動を推進していきます。

【各事業部門の取り組み】

スマートコミュニケーション部門

新規事業の「コンテンツ・XRコミュニケーション関連」では、コンテンツ資産を活用し、多様なビジネスの拡大に努めています。2024年4月には「東京アニメセンター」初の海外拠点を米国・サンフランシスコに開設し、アニメやマンガをはじめとする日本のコンテンツ文化の魅力を世界へ発信しています。また、XR（Extended Reality）技術を活かし、リアルとバーチャルの空間を融合したメタバース等で、人々の体験価値を高めるXRコミュニケーション事業を推進。新しい行政DXサービスとして生活者や自治体職員を支援する「メタバース役所」、不登校や日本語の指導が必要な児童・生徒に居場所や学びの場を提供する教育向けメタバースなどを展開しています。

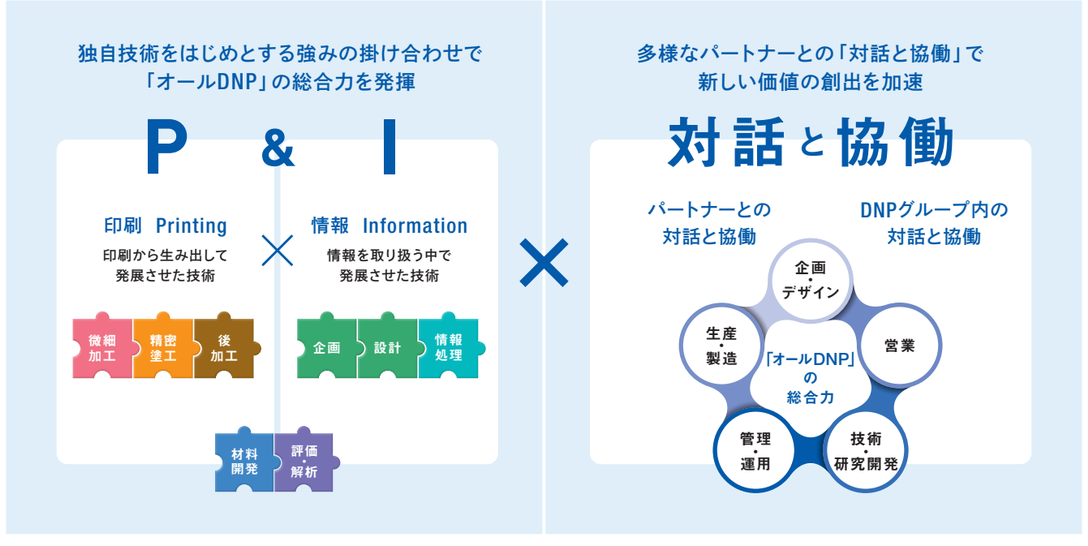
この株主通信の特集（4-5ページ）では、これらの具体的な取り組みを紹介いたします。

ライフ&ヘルスケア部門

成長牽引事業の「モビリティ・産業用高機能材関連」では、リチウムイオン電池用バッテリーパウチが、スマートフォンの新機種などによってIT機器向けが伸長したものの、車載向けは電気自動車市場の需要停滞の影響

P&Iイノベーション

印刷プロセスから生み出された技術を活かし、トップシェア製品群につなげる



を受けました。太陽電池関連は、世界的な需要の高まりによって、封止材を中心に好調に推移しました。また、2024年8月に、車載用機器のソフトウェアや通信基盤の開発の強みを持つ株式会社ミックウェアと資本業務提携を行いました。同社とDNPのデジタル技術等の強みを掛け合わせて、モビリティ関連のDXの事業を拡大させていきます。

新規事業の「メディカル・ヘルスケア関連」では、医療用パッケージの開発・販売に注力しました。また、創薬の支援拡大に向けて、iPSC（人工多能性幹細胞）専門のバイオ企業である韓国のNEXEL社と心筋細胞の培養に関する技術提携を行い、研究開発を強化していきます。

エレクトロニクス部門

成長牽引事業の「デジタルインターフェース関連」は、光学フィルムが液晶テレビ用パネルの大型化にともなう出荷面積の拡大等により、堅調に推移しました。また、有機ELディスプレイのスマートフォンでの採用拡大にともなって、その製造用のメタルマスクが増加しました。タブレット端末やノートPC、車載機器でも有機ELディスプレイの採用が広がっており、そうした市場でも、ディスプレイの大型化のニーズが高まっているため、DNPは大型化のニーズを先取りしていく形で福岡県北九州市の黒崎工場に第8世代（G8）サイズのメタルマスク生産ラインを新設して、2024年5月に稼動を開始しました。

成長牽引事業の「半導体関連」は、市場の回復によって半導体製造用フォトマスクの製造～出荷が堅調に推移しました。

こうした取り組みの結果、2025年3月期第2四半期の連結業績は、売上高が前年同期比2.1%増の7,083億円、営業利益が38.6%増の381億円、経常利益が33.5%増の500億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券の売却にともなう特別利益の計上もあり、17.7%増の897億円になりました。

私たちDNPグループは、社会とともに成長し続けるためのマテリアリティ（重要課題）を設定し、「事業価値の創出」と「経営基盤の強化」に取り組んでいます。また、事業活動と地球環境の共生を絶えず考えており、サプライチェーン全体を見据えたリスクマネジメントの徹底も図っていきます。

今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申しあげます。

FOCUS DNP [特集]

「未来のあたりまえをつくる。」

～コンテンツ・XRコミュニケーション関連～ [新規事業][スマートコミュニケーション部門]

DNPは本事業について、「コンテンツを最適なかたちで伝え、新たな価値を生み出し、快適な暮らしを支え、心豊かな文化を育む。」というビジョンと、「情報加工・変換技術を核に、リアルとバーチャルを融合させたコミュニケーションモデルを創出し、人と社会をつなぎ『新たな体験価値』を世界に届ける。」というミッションを掲げて推進しています。「コンテンツプロデュース」と「XRコミュニケーション」の事業を展開し、それを支える「共通基盤」を構築して、「より良い未来」に向けて文化を育み、快適で楽しい暮らしを実現していきます。

コンテンツ・XRコミュニケーション 基本機能

1 コンテンツプロデュース
（コンテンツ価値の変換）
「あこがれに近づく」を世界に届ける
- コンテンツ活用ビジネスの拡大
  「多様なメディア展開のプロデュース」
- グローバルビジネスの発展
  「日本のコンテンツの海外展開」

2 XRコミュニケーション®
（リアルとバーチャルの融合による価値創造）
未来のインフラとして社会実装
- 地域連動XRサービス
  「PARALLEL CITY®」
- 企業向けXRマーケティング
  「PARALLEL SITE®」

3 コンテンツ・XR領域の共通基盤
「コンテンツ企画・制作・開発」「認証・セキュリティ」「EC」「BPR/BPO」

リアルとバーチャルの空間を融合する
「バーチャル秋葉原」

DNPバーチャルエクスペリエンス
VRプレゼンゲートウェイ

バーチャル秋葉原　渋谷区立宮下公園 Powered by PARALLEL SITE®　東京アニメセンター in DNP PLAZA SHIBUYA

DNPはコンテンツ・XRコミュニケーション関連で、2026年度に、2022年度比240%の売上拡大をめざします。そのためのコンテンツへの投資や、企業・団体等とのコラボレーションを積極的に推進。例えば2024年5月に、XRコミュニケーションの基盤強化としてmonoAI technology株式会社と資本業務提携を行いました。今後も国内外の多様なパートナーと連携して、事業推進体制を強固にしていきます。

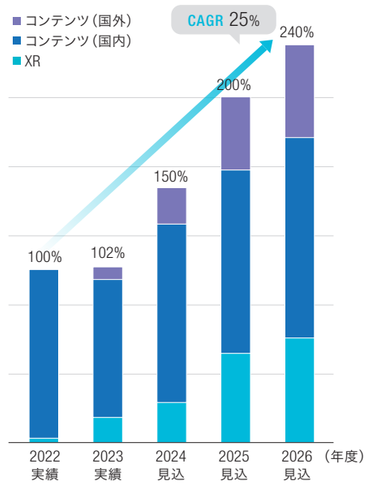
DNP 大日本印刷　monoAI TECHNOLOGY

DNPの強み

- ○ 世界中の多様なコンテンツホルダーやクリエイターとのネットワーク
- ○ 高精細画像処理技術や版権処理の実績と信頼
- ○ 認証技術と大量データ処理技術を活用した、ビジネスプロセスを統合・最適化する能力
- ○ これらの強みを応用し、リアルとバーチャルを安全・安心にシームレスにつなぎ、新たな経済圏を創出

※「XRコミュニケーション」はDNP大日本印刷の登録商標です。
※XRはクロスリアリティとも呼ばれ、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）・MR（複合現実）など、リアルとバーチャルの強みを掛け合わせて新たな体験をつくり出す先端技術の総称。

売上高：業績推移と中期計画
（22年度の実績を100%とした比較）

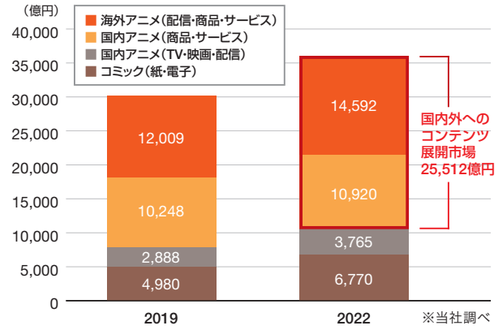


1 コンテンツプロデュースの事業展開

海外のコンテンツ市場はこの10年で約2倍の規模に成長。人々が多様なメディアでコンテンツを楽しむスタイルが世界中で定着し、マンガ・アニメ・ゲームの各種商品化や展示会等の二次展開も需要拡大に寄与しています。

こうした市場に対してDNPは、情報の加工・変換技術やソフト・ハードの開発力を活かし、コンテンツを軸とした多様な事業を推進しています。特に需要が大きい国・地域に重点を置き、日本の成功モデルをグローバルに展開。2024年4月には、国内で展開してきた「東京アニメセンター」を米国サンフランシスコにも開設しました。引き続き、企画展やイベント、情報機器開発を含む多様なビジネスを国内外で推進していきます。

日本発のコンテンツの展開構成



「あこがれに近づく」を世界に届ける

コンテンツ活用ビジネスの拡大
「多様なメディア展開のプロデュース」

企画展・イベント・商品を核にした自主興行ビジネスの拡大

DNP技術を応用したゲーム機器の開発・提供

日本の成功モデルを海外展開

- マンガ・アニメの企画展
- オリジナル商品の販売
- アミューズメント ゲーム機器提供

グローバルビジネスの発展
「日本のコンテンツの海外展開」

海外での日本発のイベント・商品・サービスの展開

北米展開から開始
Tokyo Anime Center 東京アニメセンター IN SAN FRANCISCO

北米での出展イベント（23年度実績）
- ☐ Anime Expo@Los Angeles
- ☐ New York Comic con
- ☐ Anime Matsuri@Houston

※「東京アニメセンター」は一般社団法人日本動画協会とDNPの共同運営事業です。

2 XRコミュニケーション®の事業展開

DNPは、XR技術を活かしてリアルとバーチャルの空間を融合し、人々の体験価値と経済価値をともに高める「XRコミュニケーション事業」を展開しています。認証セキュリティやBPO、DX関連のソリューション等を掛け合わせたトータルなサービスで、エンターテインメントのほか、教育や地域の課題解決、企業のマーケティング支援に向けた価値を創出し、社会に実装していきます。

行政サービスを拡張する「メタバース役所」、不登校や日本語指導が必要な児童・生徒のためのメタバース空間、企業の周年事業やマーケティングの支援など、多くの自治体や企業・団体と連携を深めながら推進しています。

TOPIC 2024年9月30日発表

児童・生徒の居心地の良い空間づくりで メタバースジャパン特別賞を受賞

DNPは、不登校等の児童・生徒の居場所と学びの場として開発した「メタバース空間を利用したラーニングシステム」で、「JAPAN Metaverse Awards 2024」（一般社団法人Metaverse Japan主催）のメタバースジャパン特別賞を受賞しました。これからも、スタートアップ等の多様なパートナーと共創し、メタバース空間を活用したラーニングシステム等で、地域の格差、学びの格差などの社会課題の解決に向けた各種サービスを展開していきます。

未来のインフラとして社会実装し新たな経済圏を創出

地域連動XRサービス
「PARALLEL CITY®」

来庁不要な「メタバース役所」

自治体が抱える多様な課題解決に向けた実証事業を開始（江戸川区）

教育向けメタバース

不登校や日本語指導が必要な子供向けの居場所づくりの取り組みを展開（東京都）

企業向けXRマーケティング
「PARALLEL SITE®」

マーケティングイベント

イベントやセミナーなど生活者との多彩なコミュニケーションの施策

企業イベント

さまざまな拠点に点在する社員が一堂に会し対話できる大規模イベント

Pickup News

2024年8月6日発表

泉崎工場（福島県）の太陽電池用封止材の生産能力を2倍に増強

太陽電池の世界市場は近年、年平均10～20%で伸長しています。2030年には世界で、累計設備容量が5.5テラワット規模となり、電力需要の約12%を太陽光発電が占めると予測しています。DNPは、こうした需要拡大を先取りして、福島県・泉崎工場の封止材生産能力を2023年比2倍に増強していきます。投資額は約30億円で、2025年内に稼働させる予定です。

泉崎工場外観

同工場内の太陽電池パネル

※太陽電池用封止材は、太陽電池の内部の電極やセルを保護し、湿気、塵埃（じんあい）、酸素、紫外線などによる外部環境から損傷を防ぐシートです。

2024年7月26日発表

サプライチェーンのリスク管理クラウドを導入し、持続可能な調達体制を強化

DNPは、株式会社Resilire（レジリア）が開発・提供するサプライチェーンのリスク管理クラウドサービス「Resilire」を導入しました。本システムは、原材料等の調達先情報の一括管理が可能で、災害発生時など、タイムリーに各サプライヤーの被害状況等を確認できます。この「Resilire」によって、サプライチェーンの可視化、リスクの把握、リスク発生時の初動対応の迅速化を図ります。

「Resilire」のサプライヤー被害状況の表示イメージ

災害や地政学リスクの影響が発生した時など、「Resilire」で効率的に各サプライヤーの状況を把握することにより、業務プロセスの負荷を低減していきます（現在の作業項目と所要時間に基づくDNPの試算では、作業時間を約50%に短縮）。さらに、各サプライヤーの状況確認の時間短縮によって、リスク発生時の初動対応を迅速化します。

また、「Resilire」の活用に賛同したサプライヤーからデータを取得することで、サプライヤーとともにサプライチェーン全体のトレーサビリティ強化やリスク低減を図ります。サプライチェーン上の潜在的なリスクを可視化して、製品・サービスの安定供給につなげていきます。

2024年10月16日開催

機関投資家・アナリスト向け「サステナビリティ説明会」を開催

DNPは、2021年のESG説明会から数えて4回目となるサステナビリティ説明会を開催しました。今回は「より良い未来」の実現に向けたDNP独自の取り組みを中心に、環境、人的資本、DX基盤の高度化、サプライチェーン、ガバナンスをテーマに、オンラインで機関投資家・アナリストの皆さんと対話を深めました。参加者からは、「全体的に内容が充実し、網羅的に細かく取り組んでいることが確認できた」「ESGのテーマを押さえた上で、サプライチェーンやDX基盤の高度化など、プラスアルファのテーマがあるのが良かった」などの声がありました。「中長期的な課題や取り組みの説明があるとより良い」などの意見も、今後のIR活動に活かしていきます。

オンライン開催の画面イメージ

◎説明会の資料・動画・スクリプトは、DNPのWebサイトでご覧ください。
https://www.dnp.co.jp/ir/library/presentation/index.html

2025年3月期第2四半期決算のご報告（2024年4月1日～2024年9月30日）

連結業績の概況（単位:億円）

科　目	当第2四半期	前第2四半期
売上高	7,083	6,937
営業利益	381	275
経常利益	500	374
親会社株主に帰属する四半期純利益	897	762

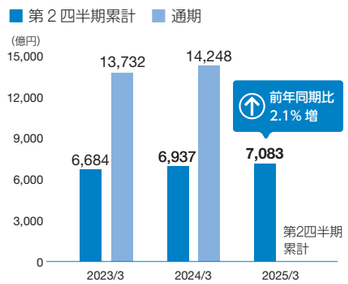
連結業績の予想（単位:億円）

科　目	2025年3月期通期（対前期増減率）
売上高	14,550（+2.1%）
営業利益	800（+6.0%）
経常利益	1,000（+1.3%）
親会社株主に帰属する当期純利益	900（△18.9%）

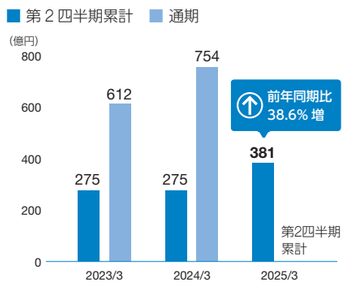
1株当たり当期純利益193円48銭※

※2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割した影響を考慮しています。

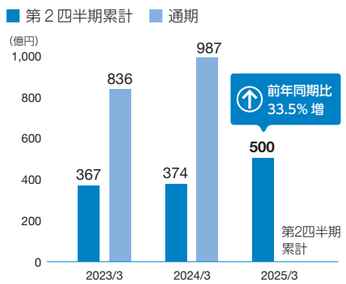
連結売上高



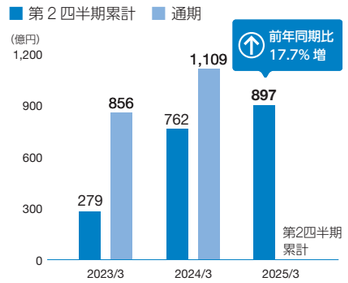
連結営業利益



連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



連結貸借対照表（要約）（単位:億円）

科　目	当第2四半期連結会計期間末	前連結会計年度末
資産の部	19,417	19,556
流動資産	8,071	7,993
固定資産	11,346	11,563
負債の部	6,933	7,189
流動負債	4,054	4,089
固定負債	2,879	3,100
純資産の部	12,484	12,366

スマートコミュニケーション部門

写真プリント用 昇華型熱転写記録材

売上高 3,466億円　前年同期比 1.1%減
営業利益 126億円　前年同期比 48.0%増

写真のプリント用部材が堅調に推移しICカードが増加したものの、BPOの大型案件が減少しました。紙媒体の減収影響を受けたものの、為替のプラス効果、事業構造改革等により、減収・増益となりました。

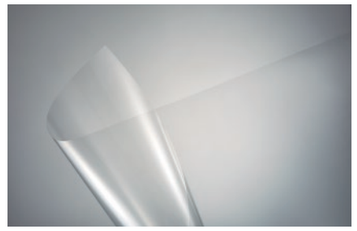
ライフ&ヘルスケア部門

リチウムイオン電池用バッテリーパウチ

売上高 2,429億円　前年同期比 4.8%増
営業利益 90億円　前年同期比 76.8%増

IT向けのリチウムイオン電池用バッテリーパウチや太陽電池用部材などが増加しました。原材料費等の上昇ペースが落ち着き、価格転嫁に加え、包装関連の売上増加などにより、増収・増益となりました。

エレクトロニクス部門



ディスプレイ用光学フィルム

売上高 1,197億円　前年同期比 6.3%増
営業利益 278億円　前年同期比 11.0%増

デジタルインターフェース関連は、光学フィルムが堅調に推移し、有機ELディスプレイ製造用メタルマスクが増加しました。半導体関連は、市場の回復によって売上が増加し、増収・増益となりました。

DNPのWebサイトのご案内

当社Webサイトでは、最新ニュースやIR情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しています。

〈トップページ〉

〈IR情報トップページ〉

●DNPのWebサイトURL

トップページ→ https://www.dnp.co.jp/

IR情報はこちら→ https://www.dnp.co.jp/ir/

株主通信「DNP Report」はこちら→ https://www.dnp.co.jp/ir/library/dnp-report/

会社情報

商号	大日本印刷株式会社(Dai Nippon Printing Co., Ltd.)	設立年月日	1894年(明治27年) 1月19日
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号	資本金	1,144億6,476万円
Webサイト	https://www.dnp.co.jp/	発行済株式総数	277,240,346株(自己株式 47,079,624株を含む)
創業	1876年(明治 9年) 10月9日	株主数	26,796名(2024年9月30日現在)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日　その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日　　中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号　みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。(当社のWebサイト https://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1.住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

● 証券会社等に口座をお持ちの株主様
株主様が口座を開設されている証券会社の本支店

● 証券会社等に口座を開設されていない株主様(特別口座)
(お問い合わせ先)　みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
(お手続き窓口)　みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申しあげます。

2.未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

(お支払窓口)　みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ銀行　本店および全国各支店

※単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いしております。

※当社は、2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

●株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社　IR・広報本部 IR室

〒162-8001　東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号　TEL：03-3266-2111(大代表)

2024.12

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。
記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。
※記載されている会社名、製品・サービス名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。